

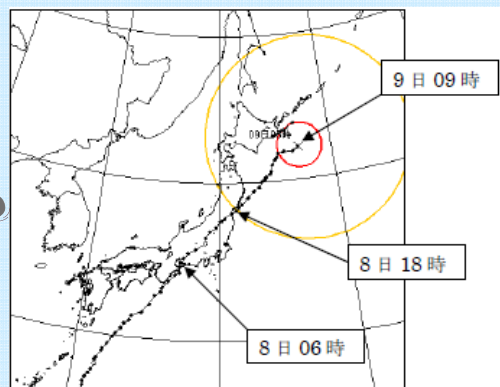


台風18号によりエキスパート出動

大型の台風18号は強い勢力を保ったまま、東北地方を通過し、大雨と強風をもたらしました。この台風により、北上川下流河川事務所から危険箇所情報の伝達及び出水対応の技術指導のために、防災エキスパート2名の出動要請がありました。防災エキスパートによる現地確認の結果、異常は見受けられなかったことから無事に活動終了となりました。約3時間の活動に感謝申し上げます。

【台風18号の動き】

- 9月29日21時 マーシャル諸島付近で発生
- 10月 8日 5時 知多半島付近に上陸、北上
- 13時 防災エキスパート要請
- 夕方 宮城県沖に抜ける
- 9日15時 千島近海で温帯低気圧に



総合防災訓練にエキスパート参加

平成21年10月20日、東北地方整備局による総合防災訓練が実施されました。例年9月1日の防災の日に実施されておりますが、今年は台風の接近により10月に延期されたもので、例年同様防災エキスパートの要請訓練も実施されました。震源は宮城県沖、管内全ての地域で震度6強という想定のもと、出動要請のあった事務所・管理所に28名のエキスパートが出動し訓練に参加しました。



(湯沢河川国道事務所における支援状況)

水防技術講習会を開催

平成21年10月25日、秋田県能代市の米代川河川敷(左岸)で水防技術講習会が開催されました。本講習会は、水防団員等の水防技術の向上を図り、技術的なリーダーを育成することを目的として毎年実施されており、東北地方整備局からの依頼により防災エキスパート5名が実技講師として参加しました。秋田県内の市町村職員や消防団等からの71名の参加者に対して、シート張工や月の輪工の実技指導や来年開催の水防演習に向けたアドバイスをいたしました。



(月の輪工法指導状況)

防災調査会を開催

平成21年10月21日、第2回となる防災調査会を開催しました。防災調査会とは、防災業務遂行能力向上のために、(社)東北建設協会内に設置されており、21名の委員で構成されています。



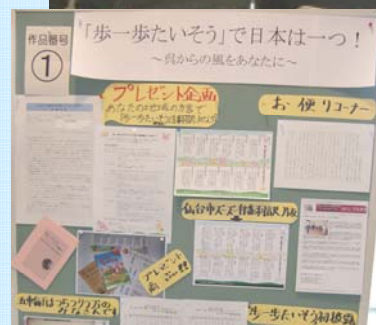
今回の防災調査会では、防災技術の継承も目的としており、防災調査会委員に加え、4学協会委員及び当協会若手職員も参加しての開催となりました。昨年発生した岩手・宮城内陸地震報告や意見交換が行われ、その中で今後の防災エキスパートの体制について、エキスパート代表幹事制度のあり方や、今後どう人材確保していくのか、エキスパートの中での役割分担が必要ではないか等の意見や提案が出されました。これらの意見を生かし、事務局としても制度をより一層向上させるべく改善を行って参ります。

とうほく☆地域を守る防災コンテスト2009

“とうほく☆地域を守る防災コンテスト2009”とは、『学校、町内会、企業など東北にお住まいの皆さんが一生懸命に取り組んできた防災活動の“がんばり”を発表する場』として毎年各県で実施されているものです。第4回目となる今年は福島県を舞台に日本大学工学部(郡山市)において開催されました。

今回は全13点の応募があり、福島県内だけでなく仙台市からの応募もありました。11月28日には展示会及び最終審査が行われ、厳正な審査の結果、郡山市の小山田地区自主防災会が最優秀賞を受賞し、トロフィーが授与されました。また優秀賞2作品、奨励賞、審査員特別賞が決定しました。

(最優秀賞の小山田地区自主防災会のプレゼンテーション(写真上)と優秀賞のわしん倶楽部の展示(写真下))



【受賞作品一覧】

最優秀賞：小山田地区自主防災会（郡山市）

“地道な活動の繰り返し、**「安全・安心」**で住みよいまちづくりへの一歩です”

優秀賞：ふくしま災害コーディネーター（いわき市）

“生涯学習市民講座からNPO防災活動推進”

わしん倶楽部（仙台市）

“歩一歩たいそうで、日本は一つ！～呉からの風をあなたに～”

奨励賞：阿武隈川塾（福島市）

“洪水実験に学んだ防災意識!!阿武隈川塾”

審査員特別賞：第8区町内会自主防災隊（本宮市）

“8区町内会防災マップ”



(本行事は、みちのく国づくり支援事業で実施しています。)

その他の活動状況

9月に能代河川国道事務所管内にて米代川水防演習事前打合せに5名の防災エキスパートが、11月には岩手河川国道事務所管内にて特定河川巡視に1名の防災エキスパートが活動しています。



また、(社)土木学会による平成21年度土木の日の特別行事としまして、『東北における地球温暖化影響と適応を考える(地球温暖化と防災対策)』と題した防災に関するシンポジウムが開催されました。

基調講演としまして、『防災意識の温暖化適応』と題し、独立行政法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター長の竹内邦良氏より御講演をいただきました。またパネルディスカッションでは、東北大学大学院環境科学研究科准教授の風間聡氏をコーディネーターに、パネリスト・話題提供として鈴木俊朗氏(国土交通省東北地方整備局)、大丸裕武氏(独立行政法人森林総合研究所)、田中雅順氏(東北電力株式会社取締役)、西川美和子氏(NHKグローバルメディアサービス)と各方面の方々をお迎えし、社会基盤整備やマスメディアの取組み等、それぞれ異なった立場からお話をいただきました。

このシンポジウムは、長期的な防災対策の面からの地球温暖化の影響に対しての「適応」について考えていくために実施されたものです。

【土木の日】

土木の2文字を分解すると十一と十八になることと、土木学会の前身である「工学会」の創立が明治12年(1879)11月18日であることから、11月18日を「土木の日」と制定。続く土木学会の創立記念日である11月24日までの1週間を「くらしと土木の週間」としています。

防災エキスパート事務局より

1. 防災エキスパート活動報告様式について

防災エキスパートの活動時には、防災エキスパート情報伝達・通報用紙を作成することとなっておりますが、これは平常時の活動時も同様とします。

出発時刻 :	参集時刻 :	標名・標社時刻 :	[その他・備考]	
参集先の活動方法(交通手段等)		徒歩・自転車・JR・バス・タクシー・自家用自動車・その他		
		料金(運賃)	円	運転距離 km
出発時刻 :	帰所時刻 :	[その他・備考]		
自宅周辺及び参集途上の公共土木施設・建築物等(直轄以外も含む)				
【被災状況】				
写真				

作成の際には以下の点に御注意ください。

①平常時活動時の記入の際は、被災状況を活動状況／支援状況と読み替えて作成してください。

②活動状況の他に、活動の目的や良かった点、改善すべき点等があれば御記入ください。

③平常時活動時でもできる限り写真を添付してください。

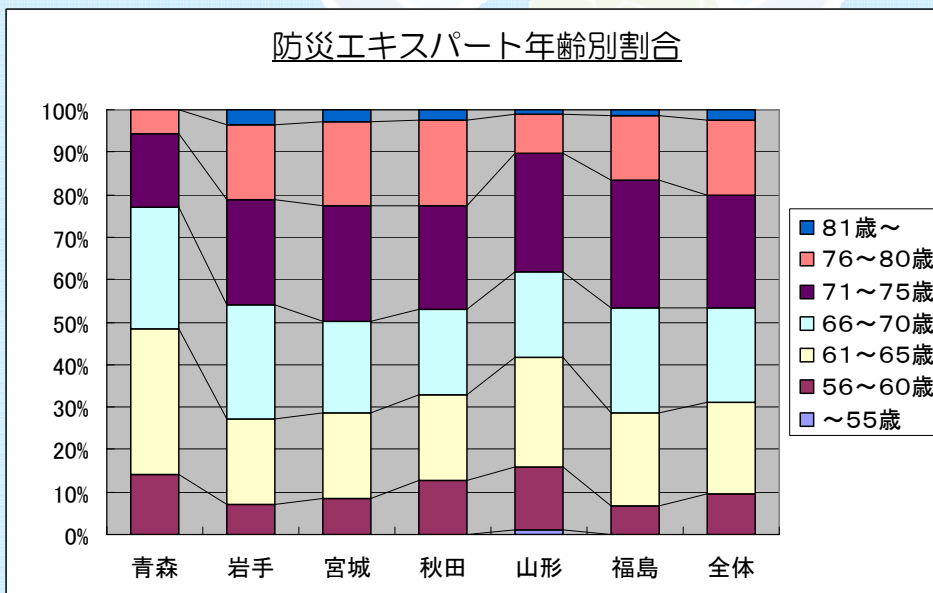
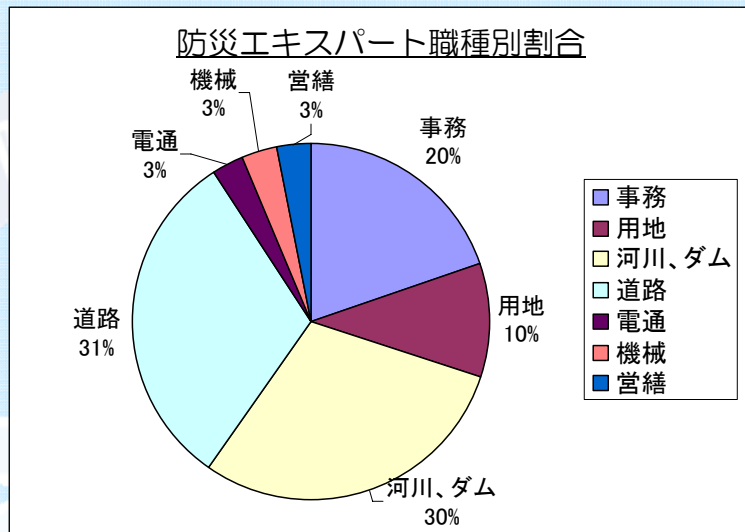
2. 防災エキスパートの現状について

現在の防災エキスパート状況についてまとめましたので、御報告いたします。

平成21年12月10日現在、防災エキスパート登録人数は851名、4月～11月のエキスパート活動従事者は延べ236名となっております。

はじめに、防災エキスパートの専門職種別割合です。7つの職種別登録者の割合を示したものが右のグラフです。最も多いのが道路で全体の31%を占め、次いで河川・ダムが30%、事務が20%を占める結果となっております。

次に、防災エキスパートの年齢別割合です。5歳毎の年齢分布を示したものが下のグラフになります。現在の全体の平均年齢は69.5歳となっておりますが、県別にみると最も平均年齢が



高いのが、宮城県の70.0歳で約半数の方が71歳以上となっております。次いで岩手で69.9歳、福島で69.5歳となっております。

これらのデータは今後の防災エキスパート制度の運用に活用して参ります。

編集後記

あけましておめでとうございます。新年を迎え、事務局としても気持ちを新たに防災エキスパート運營業務及び防災技術の研鑽に向けて取り組んでいく所存ですので、今年も防災エキスパート活動への御参加・御協力をよろしくお願いいたします。

今年の干支は寅。より一層の技術力UPで“虎に翼”としたいですね。

なお、防災エキスパートだよりへの御意見・御感想もお待ちしておりますので、下記のアドレスまでお願いします。

防災エキスパート事務局 地域事業部 記
mailto: bousai@kyokai.or.jp

